

令和6年度地域貢献プロジェクト事業報告書

キャンパス名 旭川校
代表者氏名 西川竜矢

プロジェクト名	地域貢献・伝統文化と芸術双方の書道の理解を深める高校生への書道実技講座
プロジェクトの概要	<p>本事業は、高校生へ伝統文化と芸術双方の書道の理解を深めるための高校生への書道実技講座を行う。本事業はこの活動を基礎にして本学の教育的資源と研究成果の地域還元と地域教育における連携・貢献を更に推進することが目的である。</p> <p>上川管内での講座開設の場合は1日（午前午後合わせて6時間）程度の活動を想定している。他の管内であれば移動、宿泊を伴い1泊2日）程度の活動を想定した。</p> <p>学生と高校との協議の上、活動計画を作成した（西川）。</p> <p>活動当日は、学生が主体的に運営を行い、西川、高校の指導教員は時折サポートという形を取り、大学生と高校生の交流を中心に活動を行った。</p>
地域・学校・子ども等に還元した成果	<p>この事業を通して書に関する多様な価値観（見方・考え方）に触れることにより生徒がひいては、地域の文化を発展させ、継続させる担い手になってもらうことを期待して活動を行った。事業後のアンケートからは、大学生が研究している内容を通じて、高校では書いたことのない古典を書いたり、文字分析の視点を学ぶことができたとの声があった。本事業の成果として、高大連携の視点からも大学の学びを高校生に還元することの有益性、重要性を示しており、今後一層の交流を図っていくことを考慮すべきだと思われる。</p>
学生資質向上・教職資質向上のために果たした成果	<p>本事業は、学生の他者を指導するという指導者意識の醸成につながった。指導するという経験はただテクニックや知識を伝えればいいというわけではなく、時には生徒の立場に寄り添う必要性を実感した。それとともに学生自身も変容するという価値ある経験となった。その経験を通して、学生の内的な変容を促すことで教職への意欲向上などが期待できる。また本事業を通してこれまでの学生の学び（ゼミナールでの研究発表成果）を実践の場で直接生かす貴重な機会になった。</p> <p>アンケート用紙からは、4名中3名が教師という職業への興味・関心が少し高まったと回答している。参加した4名からは、具体的な声として「教えるということについて授業で習うよりも深く考えられたと思います。」「人にものを教えることが好きで、楽しいと改めて感じた。実技演習の際、前後に書いた作品で「うまくかけました」と言われうれしかった」「生徒の皆さんが教える中で、そのアドバイスをもとに、作品が成長している様子を見れたときや感謝の言葉を言われた時、うれしさを感じた。」「自分が知っていても、高校生が知らないことがあるので、そこを考えて言葉を噛みくだきながら、説明しなければいけないと感じた。また、実技の際にはただ書くだけでなく、説明やアドバイスをしながら指導をし、生徒の様子を観察することが大切だと感じる。」「実際に指導してみて、高校生は難しい語句や言葉の意味を理解するのが少し難しいため、自分も高校生に伝わるような具体的な例をとりいれて指導することができたため勉強になった。」との回答があった。</p>

<p>キャンパス及び 大学への貢献</p>	<p>地域・学校・子どもに果たした役割と成果で示した生徒の変容は、字が上手に書けるようになるというような目に見えることだけではなく、将来、教師になることを目指している大学生との関わりを通じて、高校生の、教師という職業への興味・関心に変化があったということも付け加えておきたい。アンケートによれば、旭川竜谷高校の生徒6名中3名が、教師という職業への興味・関心が少し高まったと回答している。大学生との交流が、高校生の教師という職業への興味・関心を高めることを促した点は成果として挙げられよう。また高校生からは「1年に1度どこかの高校に声をかけていると聞きましたが、本当に勉強になる良い機会だと感じたので、もっと回数を増やして良いのではないかと思います」「わかりやすく簡潔に教えてくださって自分にはあまり（教師は）向いていないと思ったけど「教える」「関わる」ことを大切にこれからも頑張っていきたいと思いました」との回答があった。</p>
---------------------------	---

※プロジェクトに関係する資料がある場合は、併せて提出してください。